舞台テレビ照明家協会ニュース

NO. 44

昭和41年9月25日 印刷
昭和41年10月1日 発行

発行者　東京都港区新橋3丁目7番6号　舞台テレビ照明家協会　小川昇　TEL591-4824
編集者　舞台テレビ照明家協会事務局　　印刷所　株式会社新宿印刷

国立劇場 舞台設備について

事務局

帝劇も九月二十日に開場となり、注目の国立劇場開場も目前に迫って来た今日、余りにも我々が国立劇場に対して無関心なのか、又雲上のものか、説明会云々の話しも出たが……

幸いテアトロ九月号に国立劇場の問題が採り上げてあるので関係の処を拾い書きして参考にしたい。

また、劇場関係協会員より図面、設備概要が知らされたのでこれを合せて掲載することにして、会員の参考資料にしていただきたい。

特殊法人国立劇場は、三月末に四十一年度国家予算が衆参両院を通過してからも、国立劇場法案の成立が遅れに遅れて、やっと六月二十二日に参院本会議で採決をみて七月一日に発足した。

昭和三十一年四月十七日に国立劇場設立準備協議会設置が閣議決定をみてから、十年二ケ月余を経て誕生した。

建物の方からいえば、三十九年八月八日に起工してから、ほゞ二年余、三十七億四千百七十一万二千円の建設費を投じて、間もなく竣工されようとしている。

三十三年十一月にパレスハイツ跡に敷地が決定して以来、三十四年六月二十六日には、準備協議会の答申として、①第一劇場（伝統芸能）一、五〇〇人収容、②第二劇場（現代芸能）二、〇〇〇人収容③能楽堂七〇〇人収容、④第三劇場（伝統芸能）八〇〇人収容の案が提出され、同年九月八日には建築基準法に照らして四劇場の同時建築が不可と判断され、現敷地に建設のため(A)第一劇場（伝統芸能）一、五〇〇人収容、第二劇場（現代芸能）二、〇〇〇人収容、これが不可能な場合、(B)第一劇場（伝統芸能）一、五〇〇人収容第二劇場（伝統芸能）八〇〇人収容の両案が提出された。その后、三十五年九月二十二日段階で、先の修整案も困難なことが検討され、三十六年二月十六日になって劇場として伝統芸能のため一、八〇〇人収容の建物、関係施設として資料調査室と養成用の小ホールに限定される。やがて、三十七年七月七日に大蔵省と折衝して内定をみた。このとき、建築延面積約二三、五〇〇平方メートル建築工事費二三億となり設計案が公募され、三十八年三月、一等当選案として、正倉院校倉を模した。岩本博行ほか十三氏の案が決定されその翌年に竹中工務店によって施工という段取りなった。

組織面

組織構成

- 会長
- 理事長
- 理事
- 監事
- 総務部
  - 庶務課
  - 人事課
- 経理部
  - 経理課
  - 用度課
  - 営繕技監課
- 芸能部
  - 企画室課
  - 制作課
- 事業部
  - 業務課
  - 劇場課
  - 舞台技術課
- 調査養成部
  - 芸能調査室
  - 資料課
  - 養成課

舞台機構

設備の概要をしるせば、①敷地面積三〇、〇四七、一〇平方メートル、②規模、延長延面積二六、五六七、二一平方メートル、

色の周辺

テレビの空間

(K生)

TV照明の問題点の一つに、局用モニターと一般家庭の受像機の相違があります。現場のモニターを見ながら、ライティングをするわけですが、そのときは常に、この場面が実際に放送された場合にどのように変化して一般家庭のTVに、受像されるかを計算に入れておかなければなりません。実際にどのような変化が起るか、その一つの例を上げますと、良くある例ですが、広い空を背景にした、タレントの顔が真黒に映し出されることがあります。それと逆に、舞台中継などの画面に良くある例ですが、真暗な舞台の中央にピンスポットに映し出された、タレントが、ロングの画面の中央にポツンと一人立っている場合、そのタレントが真白なかたまりのように見える場合があります。これらのことは、TV受像機の中の回路の一つである、直流再生回路というものの有無に左右されるものなのです。

局用モニターには大体この直流再生回路がついておりますが、一般家庭の白黒受像機にはほとんどついておりません。では一般家庭の受像機の特徴を簡単にいいますと、TV画面の白の部分と、黒の部分が電気的にバランスが、自動的に保たれていることなのです。先程の広い空を背景にしたタレントの場合ですが、空はいう迄もなく白く映ります。この際、白い空の画面上の面積に比較して、タレントの顔が小さい場合（一般的に人物の顔の方が空より暗いので）白の面積より黒の面積が小さいので、バランスが保たれるためには黒の部分がより黒くならなければなりません。この逆に舞台場面の場合には、黒の面積が大きく、白の面積が小さいので、電気的とバランスを保つために、小さい白の部分をより白くするのです。俗にいう白がトンダ現象になるわけです。これはあくまでもTV画面上における白と黒の面積比に影響される問題です。

たえず理想的にTV画面上の黒と白の面積がバランスを保って構成されていれば良いのですが、演出上の間のから、そのバランスをくずすこともあるのですが、やはり、長い時間にわたってそのような、極端なアンバランスの構図はさけた方が良いのではないでしょうか。

軒高、一般部分一四メートル、最高部分二三、二メートル、③内容、大劇場観客席数一七四六、小劇場六三〇、および調査、資料、養成管理関係諸室をふくんで地上三階地下二階の建物、④室配置、地階……機械室、奈落、荷解室、大道具製作室、大道具倉庫、一階……ホワイエ、大劇場客席九六五（別に花道部分九五）席、小劇場五五八（別に花道部分七二）席、楽屋、舞台およびその関係室、二階ロビー、大劇場客席四二〇席、特別室、食堂、稽古室、講議室等養成関係室、管理関係室、三階……ロビー、大劇場客席二六六席、資料展示室、図書室、録音、録画室、試写室（一〇〇席）試聴室大三〇、小八席等資料調査関係室ということになる。

舞台に関しては、別表の通りである。

特長としては、舞台面積が演技面積（アクティング・エリア）の六倍、すなわち舞台巾が大劇場六五、五〇メートル、小劇場が三〇、八〇メートルあること、大劇場の回り舞台が直径二〇メートルあること、迫りの数が多く、しかも一台の迫りが分割して使用可能であることがあげられよう。また、観客席については東西両端をやや扇形とし、一階最後部が舞台端から十九メートルにして見やすいようにしたことがあげられる。

× × ×

舞台効果用スライド製作

カラー　白黒

サイズ　35ミリ　6×6　手札　4×5

〈雲〉各種タネ板取揃

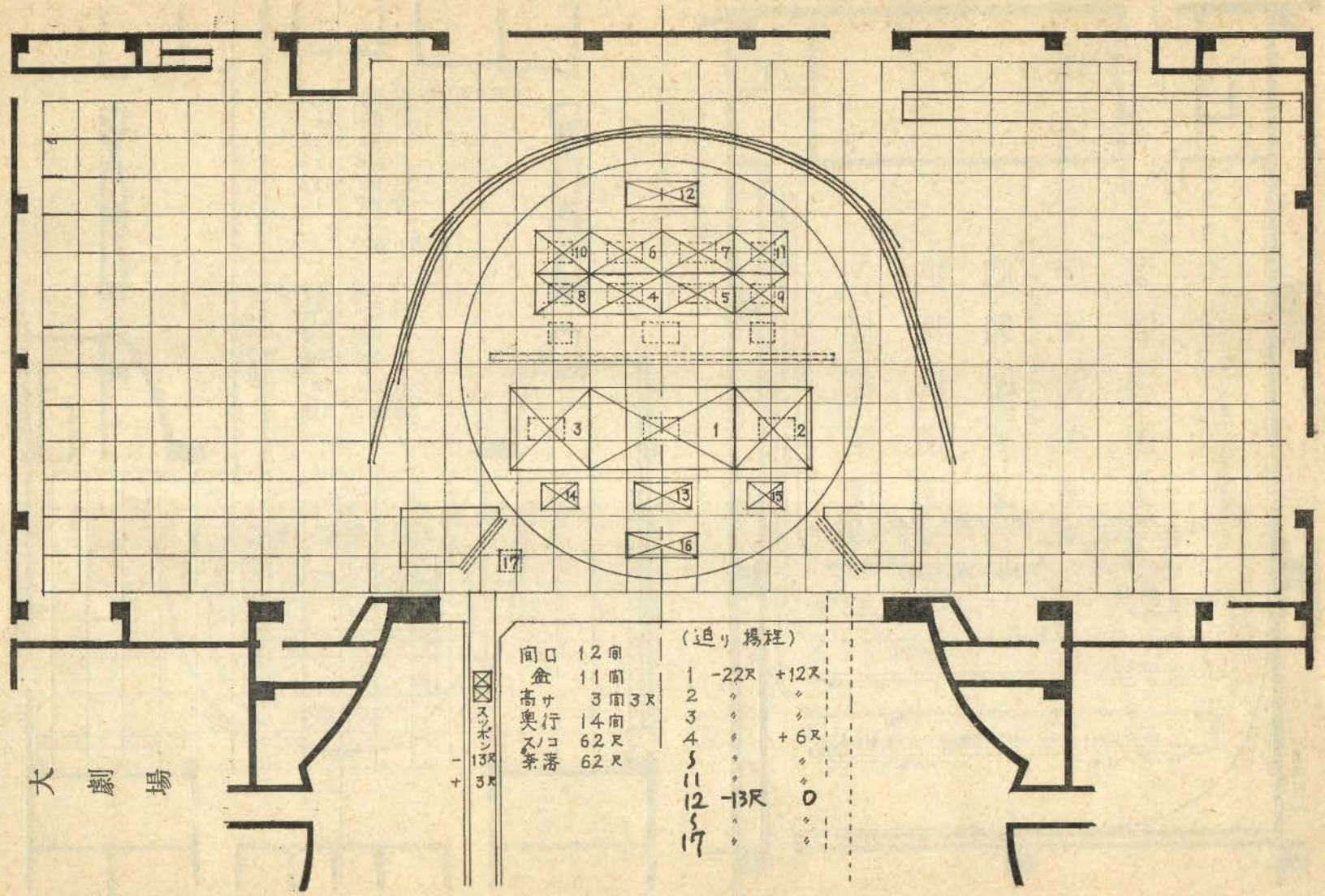
スライドに関する問題はアルゴン社へ御相談下さい

営業品目

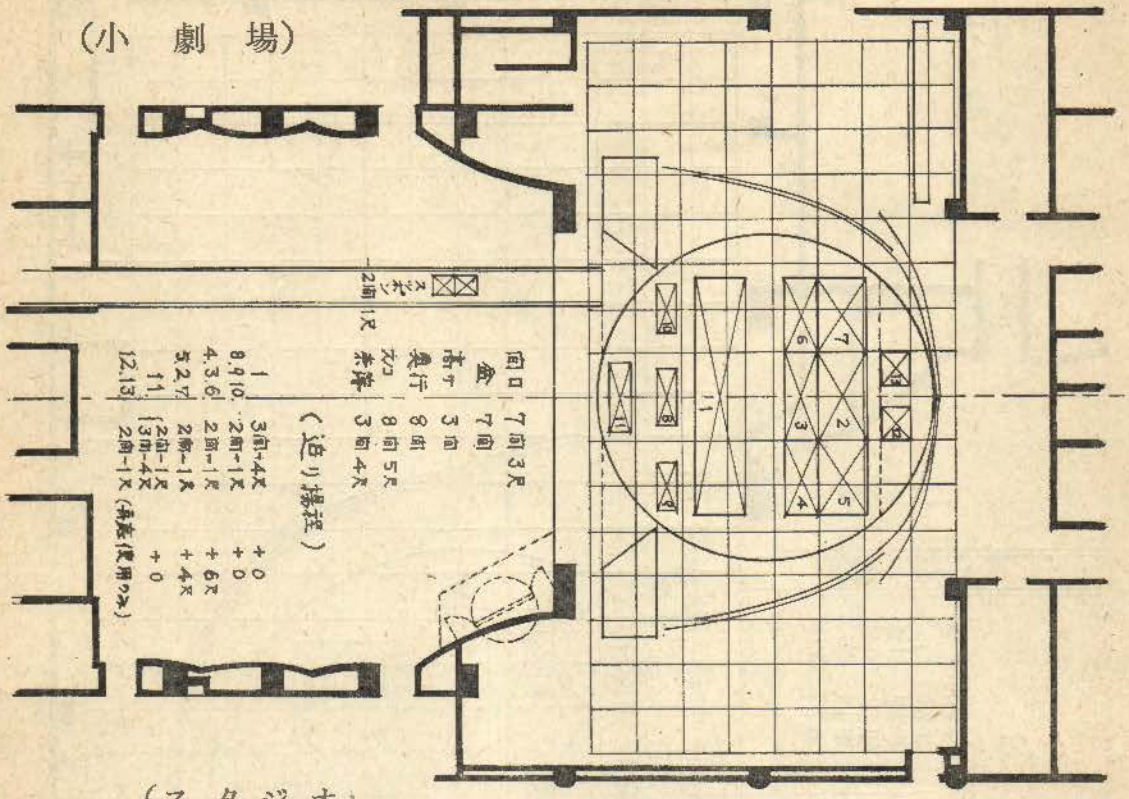
各種スライド製作
アルゴントーキースライド販売
アルゴンスコープ販売
ピーマックススポットライト販売

株式会社アルゴン社
東京都港区芝赤羽町4　452/3066

下記にても取扱っています
東京都千代田区内幸町
日比谷公園弐号地　(591) 6567
有限会社 日比谷照明

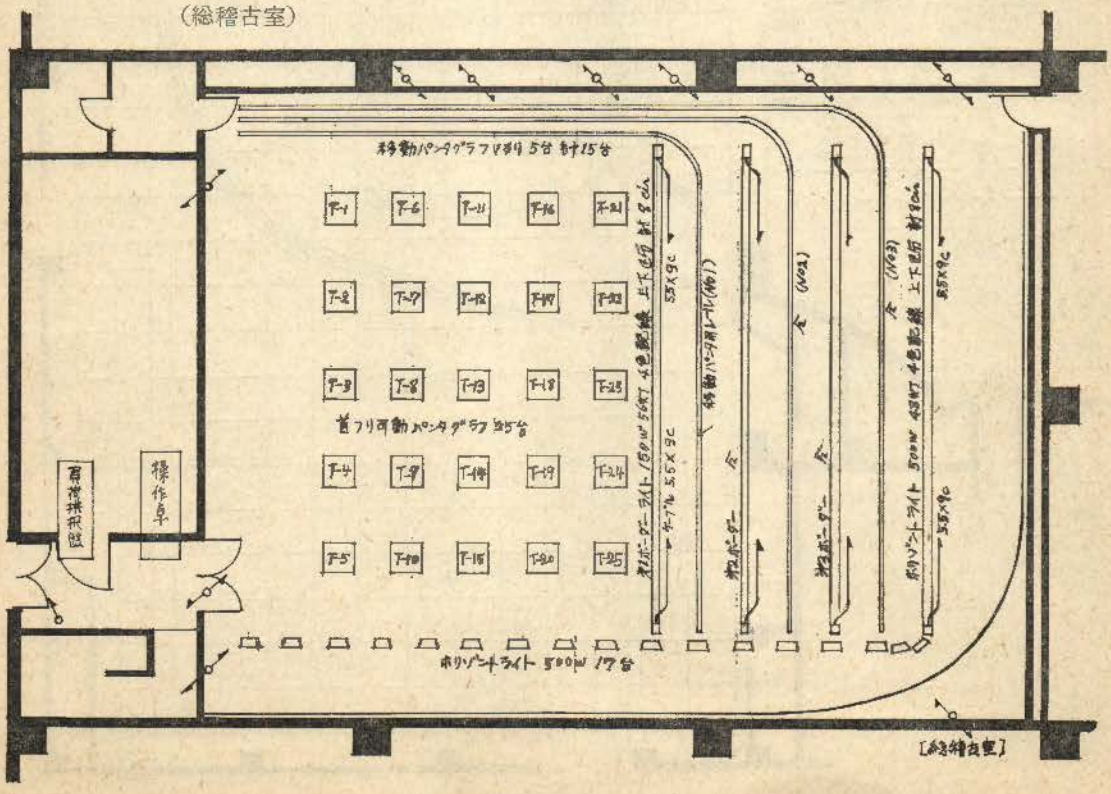

大劇場
スポンジ 13尺
3尺
間口 12間
金 11間
高サ 3間3尺
奥行 14間
スノコ 62尺
奈落 62尺
(迫り場程)
1 -22尺 +12尺
2 〃 〃
3 〃 〃
4 〃 +6尺
5 〃 〃
11 〃 〃
12 -13尺 0
〃 〃
17 〃 〃

(小 劇 場)



(ス タ ジ オ)

(総稽古室)



大劇場照明設備一覧

	名称	内容					
舞台側設備器具	フットライト	60W	120灯	12回路	4色		
	プロセニアムボーターライト	200	100	16	4		電動昇降
	No.1ボーダーライト	200	88	16	4		〃
	No.2 〃	200	100	16	4		〃
	No.3 〃	200	100	16	4	20A12口C6回路	〃 三区分分離可能
	No.4 〃	200	100	16	4		〃
	No.5 〃	200	112	16	4	20A12口C6回路	〃 三区分分離可能
	中ホリゾントライト	500	144	24		2段組	〃
	No.6ボーターライト	200	112	16(8)	4	20A12口C6回路	〃
	No.7 〃	200	108	16	4		〃
	No.8 〃	200	88	16	4	20A12口C6回路	〃
	ホリゾントライト	500	416	32(24)		4段組	〃
	プロセニアムエリアーライト	1KWSP	60台	20回路			〃
	No.1エリアライト	〃	30	30	50A 5回路 ABCDE		〃 No.1BLと共通ブリッヂ
	No.2 〃	〃	30	30			No.2〃
	No.3 〃	〃	30	30(8)	( )内はエクストラ		No.4〃
	No.4 〃	〃 効果器	10	20(8)			No.7〃
	トーメンタルタワーライト 上手	1KWSP	8	8	Cはコンセントの略号		固定
	〃 〃 下手	〃	8	8			〃
	No.1タワーライト 上手	〃	8	4			電動可能
	〃 下手	〃	8	4			〃
	No.2タワーライト 上手	〃	8	4			〃
	〃 下手	〃	8	4			〃
	プロアコンセント	30A	150口	51回路			盆中回路11路含む
	〃	50	4	4			
	ローホリゾントライトコンセント	30	20	5			
	ギャラリーコンセント	30	10	5			
客席側設備器具		SP	FSP		アーク SP		
	2階上手投光室	1,000×6	1,000×4	5回路	2台		(FSPソーラスポットライトの略号)
	〃 下手 〃	1,000×6	1,000×4	5	2		
	3階上手投光室	1,000×6	1,000×4	5	2		
	〃 下手 〃	1,000×6	1,000×4	5	2		
	No.1シーリング	1,000×24		12	(三色マグノカラー)		
			1,000×26	13			
	No.2シーリング	1,500×16		8			
		1,000×50		25	(24台マグノカラー)		
	No.2シーリング投光室	キセノンシャープエッジSP 6台 50AアークSP 6台					
	センター投光室	キセノンシャープエッジSP 6台 50AアークSP 6台					
花道設備関係	花道用フットライト	60W	80灯	8回路	2色2列		
	仮花道用フットライトコンセント	30A	2口	1			
	花道用上手3階照明室	1KWSP	6台	3			
	仮花道用下手3階照明室	〃	6〃	3			
	花道揚幕	〃	6〃	1			揚幕調光操作
	ブレンカート(万能効果器)	50Aアーク複式 固定2基 可搬一基					

小劇場照明設備一覧

	名称	内容					
舞台側設備器具	フットライト	60W	80灯	12回路	4色		
	プロセニアムボーダーライト	200	64	12	4		電動昇降
	No.1ボーダーライト	200	56	12	4		〃
	No.2 〃	200	72	12	4		〃
	No.3 〃	200	72	12(8)	4	20A12口C6回路	〃
	中ホリゾントライト	500	96	24			〃
	No.4ボーダーライト	200	72	12	4	20A12口C6回路	〃
	No.5 〃	200	64	12			〃
	ホリゾントライト	500	184	24(8)			〃
	プロセニアムエリアライト	1KWSP	18台	18回路			電動昇降
	No.1 〃	〃 〃	20	20			〃No.1BLと共通ブリッヂ
	No.2 〃	〃FSP	20	20			〃(No.2BLと共通ブリッヂ
		〃 SP	20				(単独にも昇降
	No.3 〃	〃FSP	16	20(8)			〃
		〃 SP	14				
	No.4 〃	〃 効果器	10	10(8)			〃No.5BLと共通ブリッヂ
	トーメントタワーライト 上手	1KWFSP	4台	4回路			
	〃 下手	〃 〃	4	4			
	第1タワーライト 上手	〃 〃	4	4			
	〃 下手	〃 〃	4	4			
	プロアーコンセント	30A(50A)	108口(4口)	36(4)			( )内は同一系統

客席側設備器具	2階投光室 上手	1KWFSP	4台		1KWSP	2台	4回路	アークスポット1台
	〃 〃 下手	〃	4		〃	2	4	〃
	3階投光室 上手	〃	4		〃	2	4	〃
	〃 〃 下手	〃	4		〃	2	4	〃
	No.1シーリング	1KWFSP	36台	18回路(16台3色マグノカラー)	1KWSP	6台	3回路	
	No.2シーリング				〃	44	22	(16台マグノカラー)
	No.2 シーリング投光室	1KW キセノンシャプエッジSP4台						
	センター投光室	1.5KWSP8台1KW 〃 SP4台、50Aアーク SP4台						
	花道フットライト	60W	80灯	4回路	2色1列			
	花道用上手3階照明室	1KWSP	4台	2				
	花道揚幕	〃	2台	1				揚幕調光操作
	ブレンカート(万能効果器)	50Aアーク	復式1					

舞台照明移動機器(大・小劇場共通)

名称	内容						
ソーラースポットライト	2KW	5台		レンズ(平凸)スポットライト	1KW	40台	
〃 〃	1KW	40		〃 〃	500	20	
〃 〃	500W	30		フットスポットライト	〃	10	
狭角ソーラースポットライト	1KW	40		フラッドライト	1KW	15	
大劇場ロアーホリゾントライト	200W	176灯	4色	11本			
〃 中ロアー 〃	200	96灯	4	6			
小劇場ロアーホリゾントライト	200	108灯	4	9			
仮花道用	60	1列					
ストリップライト 300×8	300	10本	2	8灯用 1.7m			石英電球吊込用
〃	300	5本	2	12 2.5m			〃
〃	100	10本	2	12			
〃	100	30本	2	8			
〃	100	10本	2	4			
〃	40	5本	1色細身				
高スタンドアーム付	10本		効果器機				
1KWSP用スタンド	20本		プロジェクター		1KW	16台	スタンド付
平置スタンド	10台	1WK500W併用	エフェクトマシン		低速	6	
吊下ハンガー	200本		〃		中速	6	
			〃		高速	12	
エフエクトマシン用デスク雲	36枚	3種	オロラーマシン			2台	
〃 波	8枚	2種	リップルマシン			3台	
〃 雪	8枚		ファイヤードラム		1KW	2台	
〃 雨	4枚		ストロボ		6速	2基	
〃 火焔	6枚		ミラーボール			2台	球及び楕円球形
コンデンサーレンズ	8枚	1KW用	U.V.螢光燈			4本	
オブジエクトレンズ	58本	F2・4・6・8・10・12吋	U.V.フィルター			50枚	

舞台照明調光設備	大場劇	小劇場	スタジオ
舞台照明負荷回路	660回路	398回路	101回路
SCR調光ユニット 6KVA	200基	100基	
3KVA	50基		
調光操作卓 フエダー	200本	100本	40本
〃 〃 花道関係	16本	11本	
システムフエダー	1本	1本	
クロスフエダー	1組	1組	1組
グループフエダー	6組(2種) 12本	6組 12本	4本
〃 〃 花道関係	6本	6本	
調光プリセット盤	4段プリセット	4段プリセット	3段プリセット
記憶装置 G.M.フエダー	4本	4本	

スタジオ照明設備一覧

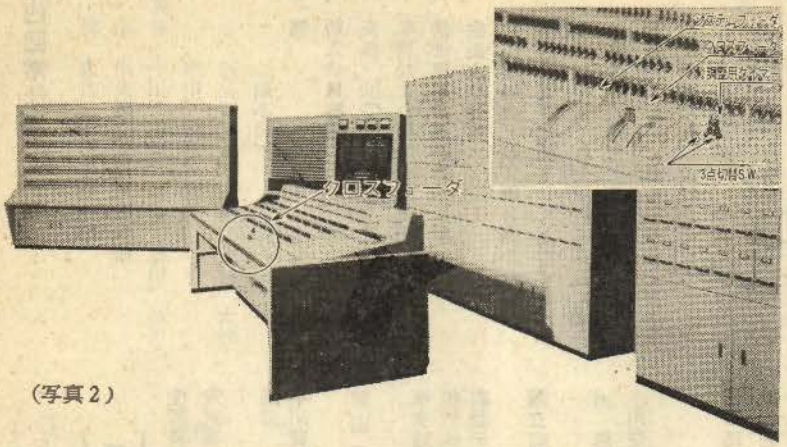
グリクトコンセット可動パンタグラフ用	30A	50口	25回路		プロジェクター電源3相60A	100A	1口	1回路	
〃 〃 移動パンタグラフ用	30	40	20		No.1ボーダーライト	150W	56灯	8	4色
〃 〃 ホリゾントライト用	15	18	6		No.2 〃	150	56	8	4
ロアーホリゾントコンセト	30	12	12		No.3 〃	150	56	8	4
壁付コンセント	30	10	5		ホリゾントライト	500	48	8	4

スタジオ設備器具表

フリーパンタグラフ		25台		〃 〃 〃 フロアー		2ケ	
移動 〃		15台		〃 〃 2口グリット		20ケ	
コンセント 30A 2口 壁付		5ケ		〃 〃 3口 〃		6ケ	
〃 〃 4口 〃		1ケ		〃 〃30A 2口10A 1口		23ケ	
ソーラスポットライト	500W	15台		パンタグラフ		20台	
〃	1K	15台		吊下ハンガー		100ケ	
〃	2K	10台		三又高スタンド		4本	
スクープライト	500	10台		ブラッキングボックス		4ケ	
〃	1K	15台		効果器		1組	
スポリップライト 100W×8	100	10本		脚立 3.5mもの		3台	
〃 100W×4	100	5本		附属品予備品		一式	

半導体による調光 (3)

瀬川泰男
(東宝照明回路技術課)



(写真2)

十二、場面の転換

(3)電子電動クロスフエード

ある場面のあかりを、かなりの時間をかけて自然に次の場面のあかりに転換してゆく場合に、クロスフエードを一ノッチづつ時間をかけて動かしていってもよいが、絶えず気をつかっていなくてはならないので、この点を解消するために電子回路で操作される電子電動クロスフェーダ（モータは使用していない）が開発されました。写真2参照。このクロスフェーダは同一のフェーダを三点切替スイッチで自動（正・逆方向）手動のいずれでも自在に切替えて操作できるもので、その移り変りの時間は調整用タイマーで一分から三〇分の間の任意の時間に設定でき、この電動機構およびその切替スイッチはクロスフェーダを構成している二個のフェーダの夫々に設備されています。この各フェーダに設けてある自動（正・逆方向）手動切替三点スイッチの操作は、スイッチを下に倒せばそのフェーダのつまみは下に動いてゆき、また上に倒せば逆に上の方向に動いてゆくようになっており、スイッチを中央の位置にすれば、そのフェーダの電動操作は切りはなされて、つまみは手で動かさない限りその位置に止っています。これらの操作は一組のクロスフェーダを構成している二個のフェーダについては夫々単独に行うことができるので、二個のフェーダに夫々設けてある三点スイッチ操作と調整用タイマの使用により、種々の巧妙な場面の転換操作を自動的に行うことができます。この電子電動機はモータを使はないで電子的に操作されるので、電動操作中にも自由に正・逆方向いずれの方向に手でも動かすことができる極めて便利なもので、最近新装なった新帝国劇場および国立劇場の大・小ホールSCR調光装置に採用されています。

十三、場面の転換

(4)フェードイン・フェードアウト

場面のあかりグループとして局部的に、あるいは全景のあかりを一括してフェードイン・フェードアウトする場合、各部のあかりが変化してゆく有様は従来のオートトランス方式の場合とかなり相違があります。オートトランス方式では各デイマのあかりの仕込みは機械的に行なわれ、マスタハンドルの回転に機械的に結合されたディマがマスタハンドルの回転操作により図10に示したようなフェードイン（実線）フェードアウト（点線）特性となります。この時回転している回転軸に適時デイマをひっかけてゆけば、各あかり毎にフェードイン・フェードアウトし始める時点を任意に変化させることもできます。

これに対してSCR方式では各部のあかりをきめているプリセットフェーダはマスタフェーダに純電気的に接続されるので、マスタフェーダの操作によってフェードイン・フェードアウトを行う場合、各部のあかりはマスタフェーダの動きに追随して一斉に或る一定の関係曲線にそって変化することになります。この一定の関係曲線としては、電子操作回路の組み方によって、掛算特性、足し算特性、直線特性とよばれるようなものがあります。

編集の不手際により二回に分けました。お見苦しい点は平にご容赦を。

日本照明家協議会だより

会報五号は只今中部地区で編集にかかり十月末に発行になるとの通知がありました。ご期待を乞う。

第四回常任理事会

日　時　九月二十日午后一時
場　所　中央区立銀座東区民館
出席者　小川、相馬、高柴、梶田、高橋
布川、阿部、岩崎、
連欠、前田、和田、土村、大野
（順不同）

議　題

一、新入会員審議
斉藤　決（都市センターホール所属）
事務局より略歴を読見上げ、承認す

二、常任理事会運営方法に就いて
会長より発言
常任理事会として毎月開かれるが、事務局処理機関として運営するばかりでなく、これと並行に身近に起きた共通の問題をその都度、提案して懇談的にし、これが議決の必要と認めたら運営機関にはかるようにしたいとの提案があり、今月はプランナーの育成問題に焦点があつまった。
三時三十分閉会

第五回常任理事会　十月十三日（木）午后一時　中央区銀座東区民館一号室

新入会員紹介
斉藤　決（ひろし）都市センターホール所属　世田谷区経堂二六一番地
栄荘内

昭和三十六年六月より三十九年十一月迄、共立に勤務、以后フリーにて、主として梶孝三正会員の処にて従事、四十一年九月都市センターホールに入社。

事務局通信

住所表示変更（順不同）
穴沢喜美男　品川区上大崎四丁目五番三十二号
浅沼　貢　国立町谷保武蔵野九〇〇九
平川賢次郎　宇都宮市緑三丁目二一六三番地一〇一号
前田二郎　港区北青山三丁目十三番十一号
東京放送　港区赤坂五の三の六号
松竹株式会社　中央区築地一の十三の五
劇団テアトル・エコー　渋谷区恵比寿一の十八の十八号
国立劇場　千代田区隼町十三番地　電話（二六五）七四一一（大代表）

消　息
小川俊朗　加州大学バークレー校演劇科の舞台照明に関する講座を担当することになり十月渡米。
福田瑠美　有馬照研よりフリーに

第七回演劇講座開かれる
十月十日、十二日、十三日の三日間朝日講堂にて、現在、演劇界でとかく議論のある喜劇の問題を取り上げ、又演劇テレビ界の女優の現在の演目についての話。現代の演出等のプログラムで開かれた。

国立劇場調査養成部に資料として会報・ニュース寄贈の要請により事務局より発送。

プリセット

国立劇場も愈々十一月開場に迫り、ポスター、広告と、大宣伝の奮闘、館内は設立事務所より引越し完了で、劇場準備に大童の様子、ニュースも国立劇場の照明設備概要を国立劇場協会員より投稿され、掲載することが出来たことを報告します。新帝国劇場の設備概要も依頼したが担当者の多忙?…なのか開場一ケ月たってもまだ知らされず、何んかPRの点で、チグハグな感じをうける。

新帝劇のSCR調光操置に種々なトラブルがあるとのニュースもあり、SCR調光装置がはたして音楽的演劇、又非音楽的演劇に、適当であるか不適当である。従事者の操作上の覚感よりディスカッションが欲しいものである、不適当なれば、どの様に改良すべきか、又原理的に不適当であるか、多いに知りたいものである。SCRの原理、応用に就いて有用な参考書が出た。「電子科学」八月号で、基礎編としてSCRの珍重性、スイッチ、特性と用語、選び方、使用上の注意、破壊と信頼性、試験法、種類、ゲート回路入門、応用編としてチッ〃パ回路とインバータ回路、位相制御、オン・オフ制御回路、照明制御への応用、etcで、一読をおすゝめする。

十二チャンネルの協会員金子能章殿が九月末に死亡された。謹しんでご冥福を祈る。

ハンドブック編輯に
必要な資料募集

基礎編の原稿はどうやら出来る目やすがつきましたが、実際編こそ会員すなわち実際に照明の仕事に携わる者でなければ作ることができないものであります。日頃自分で実行していること、新しい工夫、やってみたがうまくできなかったこと、あるいは知りたいと思うことなど、何でもよいから送って下さい。例えば、屋台のランマのストリップの吊り方コードの這わせ方、ステージスポットでもその目的によってどんな条件が必要か、フロントやセンタースポットの操作について原則的な注意が必要か、また配電盤の操作上心得など何でもよいのです。会員がそれぞれの分野についての経験を持ち寄って作るということがわれわれがハンドブックを作る最大の意義だと思います。どうぞ協力をお願いします。

期　日　なるべく十一月卅日までに
送り先　千代田区丸の内三の二新東京ビル五五〇室阿久沢事務所
内小川照明研究所　小川昇宛

舞台テレビ照明家協会ニュース

NO. 45|6|7 合併号

昭和41年12月25日 印刷
昭和42年1月1日 発行

発行者 東京都港区新橋3丁目7番6号 舞台テレビ照明家協会 小川昇 TEL591-4824
編集者 舞台テレビ照明家協会事務局 印刷所 株式会社新宿印刷

SCR調光装置操作研究会報告

主題

半導体による方式の調光装置について、その操作の問題に関し、体験者の話し合いを通じて操作技術の向上をはかり、合せて設備の改善に役立たせる。

協会員出席者（順不同）

日生劇場 本田恭二
虎の門ホール 古藤四郎
中日劇場 柘植貞輝、本多達夫（若尾）
帝国劇場 大平登三郎（松浦 代）
国立劇場 田村昭司
東京舞台照明 牛丸 茂、秋本道夫
NHK、TV 土村 晶 伊藤安雄
NET、TV 高橋英吉、石塚哲郎
東芝ご出席者（敬称略）
田中正士、瀬川泰男、市川敦雄
福田忠義、米村睦雄
進行係 小川 昇、和田光弘

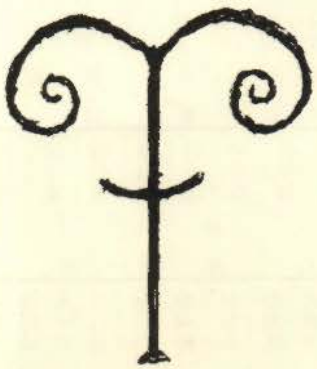
十一月十六日東銀座区民館に於て

半導体に依る調光方式の開発によって、いわゆるSCR調光装置を設備する劇場やホールが次第に増加することが考えられる。われわれはなるべく早くその装置について勉強しなければならないが、この装置は、現段階では必ずしも操作上完璧とは云いがたい点もあるようである。若しその不完全な部分が改良されないままにこの装置が普及されることは決して好ましいことではない。そこで、現在設備されている装置について、その規模や機構にいろいろ異ったものもあるが、それを実際に操作している人達の体験から述べる意見や希望を、此の装置のメーカーにも開いてもらって、改良の参考にしてもらうことがこの研究会の一つの目的であった。会員相互の活発な発言により、操作技術の向上に非常に有益な研究会であったと同時に、メーカー側に於ても熱心にわれわれの意見を聞いてくれて、必ず将来の改良に反映されることと思う。

具体的には、東芝で此の研究会に出たいろいろの意見や希望をとり入れた操作盤のモデルケースを早急に試作して、照明家と共に、個々の問題を実験しながら改良に反映したいという申し入れがあり、是非実現するようお願いした。

（事務局）

謹賀新年



昭和四十二年元旦

日本照明家協議会
関西照明家協会
中部舞台テレビ照明家協会
舞台テレビ照明家協会

（順不同）

色の周辺

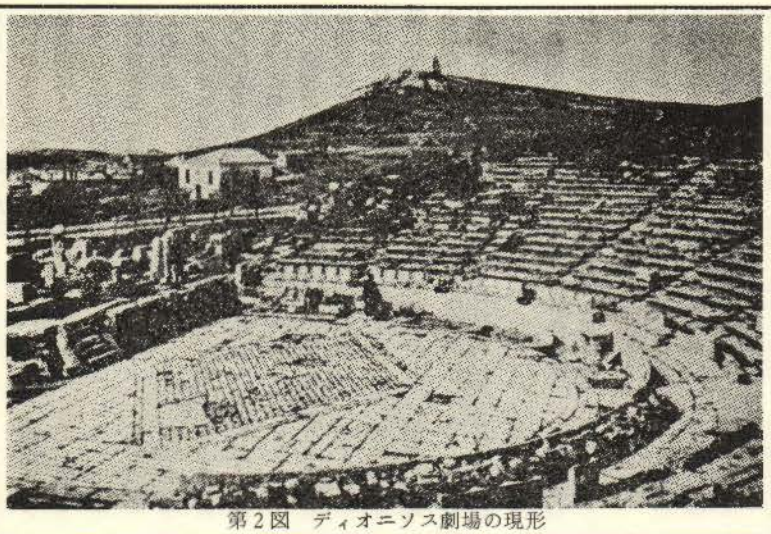
今昔地名・時刻表

(K生)

①陸奥	②陸中	③陸前	④磐城	⑤岩代	⑥羽後	⑦羽前	⑧安房	⑨上総	⑩下総	⑪常陸	⑫下野	⑬上野	⑭武蔵	⑮相模	⑯伊	⑰駿河	⑱遠江	⑲三河	⑳尾張	㉑美濃	㉒飛弾
青森	岩手	宮城	福島		秋田	山形	千葉		茨城		栃木	群馬	埼玉	東京	神奈川	静岡		愛知		岐阜	

㉓信濃	㉔甲斐	㉕越後	㉖佐渡	㉗越中	㉘能登	㉙加賀	㉚若狭	㉛近江	㉜山城	㉝丹後	㉞丹波	㉟但馬	㊱播磨	㊲淡路	㊳摂津	㊴和泉	㊵河内	㊶大和	㊷紀伊	㊸紀勢	㊹伊賀	㊺志摩
長野	山梨	新潟		富山	石川		福井		滋賀	京都		兵庫			大阪			奈良	和歌山	三重		

㊻阿波	㊼土佐	㊽伊予	㊾讃岐	㊿備前	51美作	52備中	53備後	54安芸	55周防	56長門	57石見	58出雲	59隠岐	60伯耆	61因幡	62筑前	63筑後	64豊前	65豊後	66日向	67大隅	68薩摩	69肥前	70肥後	71壱岐	72対馬
徳島	高知	愛媛	香川	岡山			広島		山口		島根			鳥取		福岡		大分	宮崎	鹿児島		熊本	佐賀	長崎	



第2図　ディオニソス劇場の現形

照明の点から見たギリシャローマ劇場

遠山静雄

はじめに

舞台照明が劇作、演出演技、舞台装置の上に大きな影響を及ぼしていることは明かであり、照明の発達とともにそれらファクターがどのように変化発展してきたかを調べることは、私の研究テーマの一つである。

この研究の一環として先ずギリシャ、ローマにおいて照明が如何なる状態にあったかを調べる緒についたのであるが、現在私の手許にある資料は完璧といえないからなお研究の途を辿って行く考えでいるが、一先ず現在の段階において報告を試みたいと思う。読者の御批判、御教示を得れば幸である。

ギリシャ劇場の概説

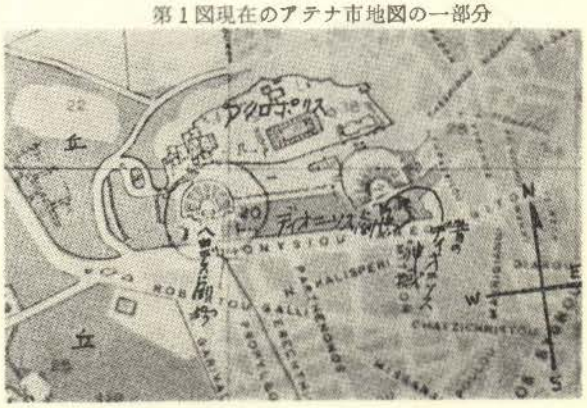
人工光源未開発の時代に演劇が昼間太陽光の下で行なわれたことは、どの国でも同じである。

ギリシャ、ローマ時代も勿論この範ちゅうに属する。ギリシャの代表的劇場はアテナのアクロポリスの丘の南麓にあるディオニソス劇場である。ディオニソスの神殿はこの劇場の裏側にあった。劇場と神殿とが接近していることはギリシャ演劇の起源がディオニソスの祭礼に由来していることから当然であるが、この点については後に更にふれることにする。

劇場は最初木造であったが後には石造になった。アイスキュロス、ソポクレス、エウリピデスの三大劇作家が競演したのは紀元前五世紀の木造時代であったといわれ、石造に代ったのは前四世紀になってから(1)とされているが形態に大きな変化はなかった。いずれにしても観客席はアクロポリスの丘麓の斜面を利用したものであり、石造の面影は舞台の建造物を除いて殆どそのままに現存している。(第2図)(2)。

ギリシャ劇場の形態は円形のオーケストラと称する平な部分の周囲に、擂鉢形の階段をもった観覧席(セアトロン)があり、演技の原始的形態はオーケストラにおける合唱と舞踊であったが次第に俳優の演技に重点が移行してその演技場所としてオーケストラの一端に舞台が設けられ、従って観覧席は円錐の一部を欠いた形となり、舞台も次第に建造物を増して

第1図現在のアテナ市地図の一部分



楽屋(スケネ)を造りその前面がそのまま固定した背景として使われるようになった。

ここで我われが注目しなければならないことは、ギリシャ、ローマの劇場は舞台が一の定形をもち、固定した建造物を背景としたすべての演劇が行なわれたということである。あるいは考え方によっては無背景であったともいえ、その点わが国の能舞台と共通している。そこに根本的に劇作の上にも演出の上にも一つの制約ができ、照明の点においても基本的な問題が存在することを余儀なくさせられる。即ち場所や状景の説明も、照明的

現象も具体的に観客に訴えることができないのであるから、俳優のセリフ、合唱の歌詞によって説明されるより他ない。こうした不自由な条件が一つには劇作法における三一致の法則を生む結果になったのである。

ディオニソス劇場の観客収容力は一七〇〇〇人3)あるいはそれ以上といわれている。この厖大な人員を収容するためには、面積の割合に収容力の大きい円形式の観覧席にしてもその最後部は舞台から遙か遠い所にある。デルプフェルトの作製した図4)面から測定してもその平面上の距離は九四メートルとなる。実際には斜面であるから視線の長さは一〇〇メートル以上となる。

この数字は俳優の表情を見得る限界を遙かに越している。従ってギリシャ劇においては俳優の顔面表情は無視した演技が行なわれた。即ち大形の面をつけ、身長を増すためのオンコスと称する高いかつらをつけ、コソルノスと称する下駄をはいて、ただ姿態が遠方からでも幾分見易くなるように工夫された。遠方からでもよく見える条件には目的物が大きいと同時に明かるいことが必要である。この場合明かるさは人為的に操作できないが昼光であるから五〇〇〇ルクス以上の照度があった筈である。

(五〇〇〇ルクスというのは曇天の最低照度である。)

アテネは雨量がすくなく晴天の多い土地である。参考のために東京との比較を第1表に示そう。

この表の示す通りアテネは気候温和で雨量がすくない点が野天劇場の発達の好条件を備えていることとなる。ここで晴天の場合舞台に対する日照がどのような状況にあるかを調べて見よう。

第1表　アテネと東京の気候表

	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
アテネ	気温 °C	9.5	9.4	11.6	15.1	19.4	23.8	26.9	26.8	23.3	18.8	14.4	11.3	17.5
	降水量 mm	52	40	36	20	21	14	6	9	13	41	72	67	391
東京	気温 °C	3.2	3.9	7.0	12.8	17.2	20.8	25.1	26.4	22.6	16.4	11.0	5.7	14.3
	降水量 mm	41	77	95	136	138	177	146	148	229	226	96	58	1568

ディオニソス劇場の日照状態

アテネは北緯三七度五八分の緯度にあるから、この地点から見た太陽運行の軌跡を平面に表わすと第3図のようになる。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは夫々夏至、春秋分、冬至における軌跡である。デルプフェルトの作図によるディオニソス劇場の舞台を演技の中心を軌跡図の中心点に合致せしめるように、且この舞台は大体北面しているが十三度西に傾いているからその方向に向って軌跡図の上に乗せる。演技がP点において行なわれる場合のみを考えて、P点を通過しスケネ前面に平行な線QRよりも北側に太陽がくるときは舞台に前面からくる太陽直射光があるが、この線より南寄りの場合は太陽が背面にある。

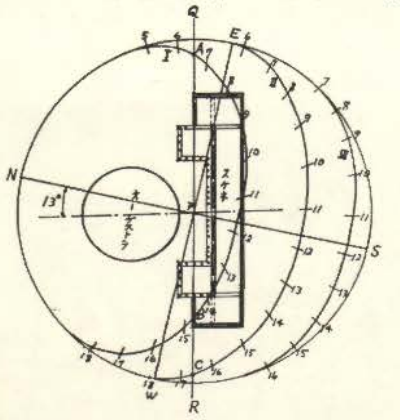
前面にくる太陽の限界位置を軌跡の上に求めるとA、B、Cの三点になる。これらの点は夏至において大体六時二十分頃と十四時三十分頃であり、春秋分においては十六時四十分頃である冬は全然前面からの直射がない。この時間の算出は作図によったもので、筆者が昭和三十八年十二月雑誌「観世」に掲載したと同じ方法による5)。

夏至における前面日照は五時前の日出から六時二十分頃までと、十四時半頃から十九時頃の日没まで、昼間の八時間余は背面光となる。

春秋分に於ては一六時四十分以降十八時までの僅か一時間余のみが前面光となる。この際前面光と云うのも斜光であって、まともな正面光ではない。

日出、日没の時間は水平線上における太陽位置に基いて記述したのであるが、東或は西に障害物があればこの時間は変る。第1図並に第2図に示すようにディオニソス劇場の西には丘があるから日没時間は上記より早いわけである。

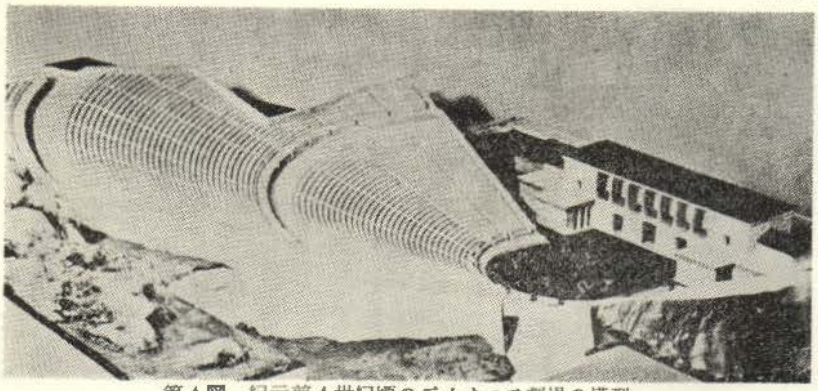
斯様に正面光が得られたとしても極めて短時間であるが、然らば俳優に対する逆光がシルエットのハイライトとして有効に使われていたがどうかを調べるために、デルプフェルトの推定断面に基いてスケネの高さを軌跡立面図に乗せて作図を試みたが夏至には六時過から十四時半頃までの間にその状態を得るけれども春秋分、冬至においてはスケネに遮られて射光しない。競演の行われたディオニソスの祭礼は三月末であるから、この時期には舞台に背面からの直射日光は当らない。ただ夕方の極の僅かな時間西日が斜前方から射すが仮りに丘陸地帯にさまた



第3図
ディオニソス劇場に対する太陽運行軌跡

げられないとしてもパラスケニアに遮られて舞台に届かぬ。若し後世舞台に庇が設けられるようになれば夏季の逆光照射もあり得ない。

第3図に乗せたデルプフェルの舞台平面図も第4四図に示したクリーブランド美術館にある古代ギリシャ劇場の模型6)



第4図　紀元前4世紀頃のディオニス劇場の模型

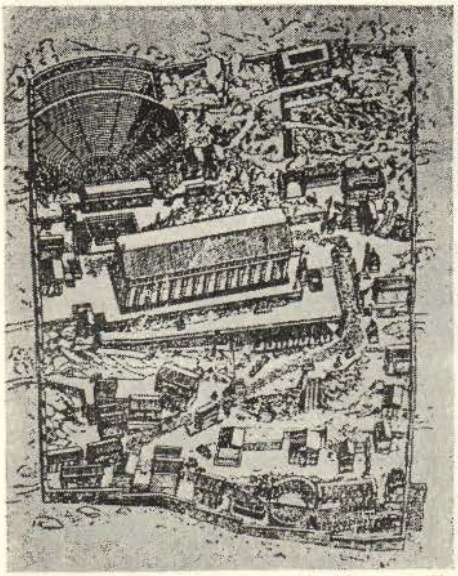
も紀元前四世紀頃のものであった、三大作家達の活躍した紀元前五世紀中頃の劇場とはいさゝか異り既に石造時代になっている。紀元前五世紀中頃の木造時代にはスケネの高さも低く、パラケニヤもなかったとすれば、前記の日照時間に日出、日没近くの延びと昼間の背面直射もある程度考えられることに留意する必要がある。

然しギリシャ演劇は三大劇詩人の歿後益々盛んになったことは、アレキサンダー大王が広大な帝国を造ったその領土内即ち地中海沿岸各地にヘレニスティックスタイルと称せられるギリシャ劇場が沢山建造された事実についてもいえるだろう。又、ローマ大帝国の征服範囲に至っては所謂のローマ劇場が単にイタリヤのみならずギリシャ、トルコ、イスラエルはいうに及ばず、イベリヤ半島からフランス更にイギリスにまで普及している。そうしたこの時代の約八世紀になる演劇において日光がどう扱われたかを調べるのが目的であるが、その基本的形態として上記紀元前四百年頃のディオニソス劇場に就て考察することは無駄でないと思う

ディオニソス劇場について云えば、舞台は日光の直射の無い天空拡散光で照明されるのを基本としていたことがわかった。私はこの点にいさゝか疑問をもつ。

曇天に於て舞台並に観覧席を含めた劇場全部が天空光のみで照明されている場合は問題はないが、晴天の場合に於ては観覧席とオーケストラが直射日光を受れているのに舞台だけが蔭になっていることは、最も大切な主要俳優に対する照度が落ちて、第二義的演技をする合唱隊及び観客がより明るい状態に置かれることゝなり、演劇の視覚的好条件に背馳する。また観客が晴天に南向きで観劇する場合に太陽の眩輝が眼に入ることは甚だしい妨害となるのではないか。何故斯様なことが起きるか無論その直接原因は舞台が北面しているからである。

一般に野天劇場は南面していることが常識である。また神に奉納する行事となれば、舞台は社殿に向って設けられ、演技者は社殿の方を向き、観客はその背面と側面とから見物するのが我国の習慣である。春日おん祭に於ける若宮前の土舞台もこのように使われる。厳島神社雅楽舞台並に能楽堂も社殿に向って演ぜられるようになっている。ディオニソスの演劇はそうした我々の観念と違って、演ぜられる劇を神に向って奉納する形式をとっていない。社殿はスケネの背後である。見物は舞台を越えた先に社殿を望見し得るのであるから、強いて考えれば観客の方が劇を見るとディオニソス信仰とを同時に兼ねる立場に置かれたともいえようか。しかし事実はたとえ現スケネの背後の神域に於て、即ち神前に於て行われた祭の行事その場所に生贄をさげる聖壇があったから発生した演劇であるにしても、演劇行為が発生すると既に興行目的に移行して神前奉納の精神は失われたと見るべきであろう観客の視覚条件に適合せしめたるために客席を自然の斜面である地に求めたが故にこの劇場が北面せざるを得なかったのではないかこれと同じように神殿を背を向けて舞台を設けた例にはデルフィの劇場がある第五図はその劇場とアポロ神域の想定図である。この劇場の客席側は山に連なる。

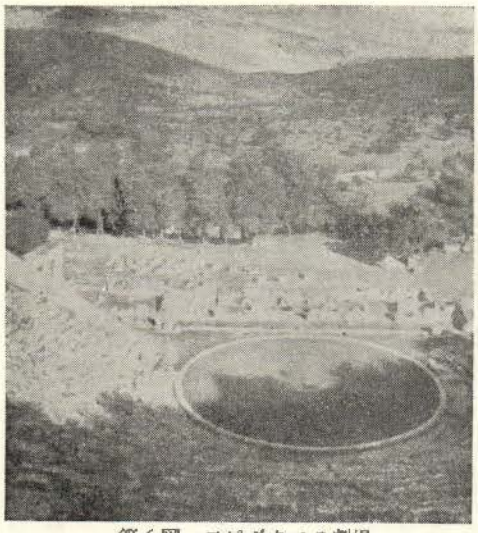


第5図　デルフイのアポロ神域と劇場想定図

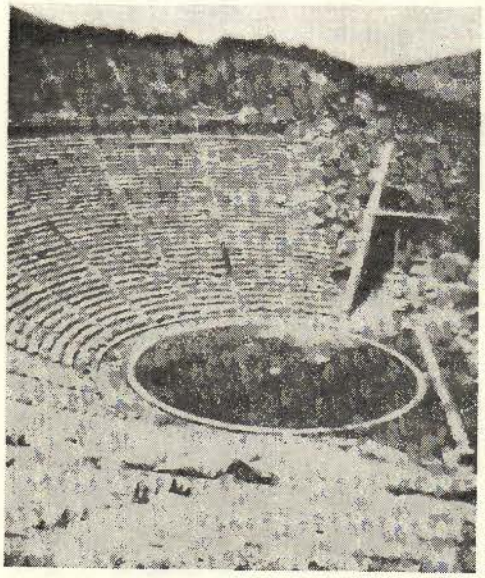
ディオニソス以外の劇場

ディオニソス以外のギリシャ劇場はどうであろうか。（ここにギリシャ劇場というのは必ずしも現在のギリシャ国内にあるものと限らず、ギリシャ文化の普及した各地における古劇場を意味する。）不幸にしてこれまでの学者は野外劇場の日照について殆んど関心を示しておらぬと見えて文献が見当らぬ。測定されたあるいは復原された平面図においても方角を示したものは極めて稀である。（方位を明かにした例は前掲のデルプフェルトのディオニソス劇場平面図である。）実地の踏査を他にしてこの点を調査する手段は、撮影された写真の日影を見て判定するよりほかない。これとても撮影の季節と時間が不明であるために確実なことはわからぬ。しかし、南北線に対しどれだけの偏角をもっているかはわからないまでも、東西線に対して南側に向いてるか北側に向っているかの判定はほぼつく。

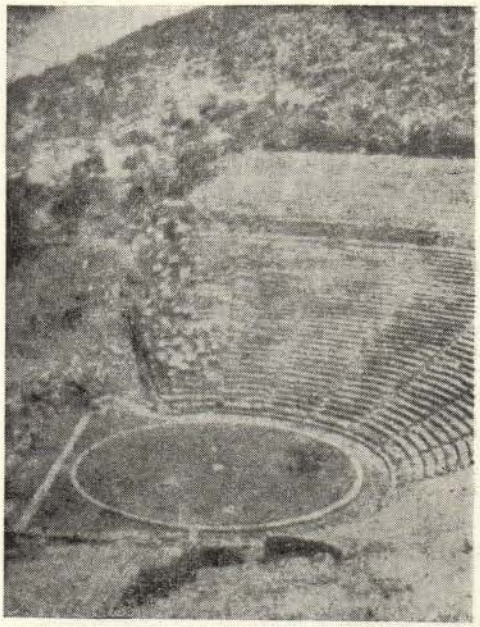
第6図はギリシャ、アルゴリスにあるエピダウロス劇場である。この写真は観覧席から舞台に向って日が射している。即ち舞台は南向きである。これを確認するためには更に第7図、第8図がある。第7図は「西側パロドス（舞台脇の通路）を望む」写真であり、第8図は「東側のパロドスを望む」とある[8]。なお「北」並びに「南」から撮った写真もある。



第6図　エピダウロス劇場

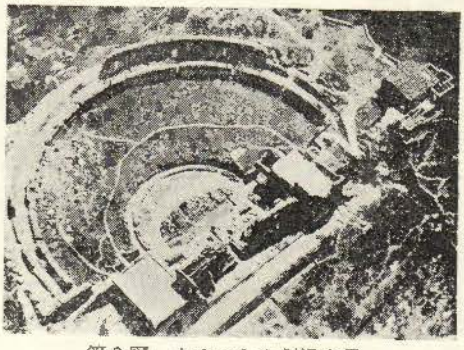


第7図　エピダウロス西側のパロドスを望む



第8図　エピダウロス東側パロドスを望む

第9図[9]はシシリ島の東岸にあるタオルミナの劇場である。紀元前四世紀の建造といわれ、現存しているのはローマ時代に改築された遺跡である。正午近くの午前中に撮影したものと思われる。同じ劇場を観覧席から舞台に向って撮った写真（第10図[10]）には海岸線とエトナ山が見える。カメラレンズの軸は海岸線の走る方向と、エトナ山を望む方角との中間にある。この写真を地図の上にあてはめて推定すると舞台東北に向っている（第11図）。その条件からこの写真の影を見ると午前に撮影したもので、影が逆になっている第12図[11]は午後撮ったものと考



第9図　タオルミナ劇場全景

らえれる。

第13図[12]は小アジア西岸のプリエネにある劇場であるが、この写真で見ると柳の影が前方に投射されているから、舞台は北面していると推定される。

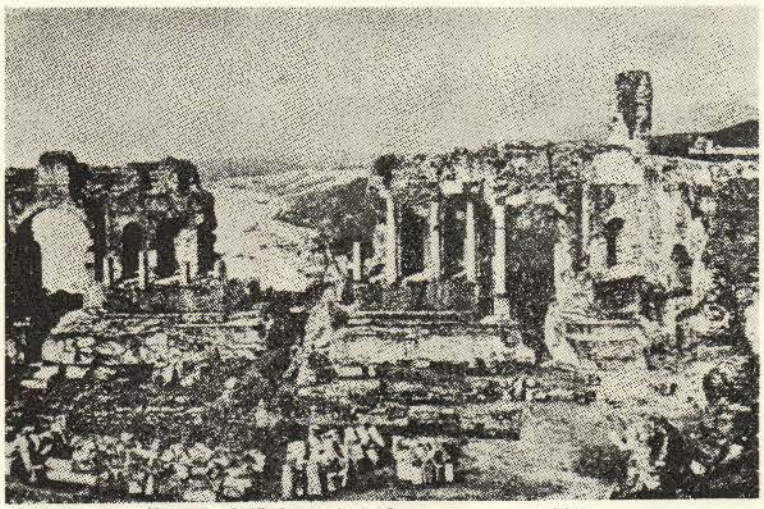
第14図[13]はペルガモ（小アジア）の劇場で一～二世紀のローマ時代につくられたものであるが、日影を見ると舞台に斜前方から日が射している。ところが第16図[14]によると舞台の後方から日が射している従って舞台は東北に向いている。半日舞台に日が射し半日は影になるという状態の如く思える。第15図[15]はギリシャのエウボイア島にあるエレトリアの劇場である。この市は海岸にあって南に海峡を距てて本土に対する位置にあるが、入江の状況を知る詳しい地図がないのでこの写真だけからは判定し難いが、実はこれは朝日による撮影であって舞台は北面している。それは第17図[16]が西北から見た写真であると指示されていることで知れる。またオーケストラが北に移築されたについては位置との比較平面図もあるので[17]一層北面していることが明かである。

第19図[18]はイスラエルのカエサリアにあるローマ時代の劇場である。この町は地中海に臨みその海岸線は南北に走っている。写真の上部に見える海と、夕方の長い日影とを見れば、舞台が東に向っていることが判る。第20図[19]は同じ劇場であるが、舞台右側やや前方から日が射している状態から観察するとこれは正午近い午前中の撮影と思われる。

イスラエル北部奥地にペト・シアンという町がありローマ時代の劇場遺跡が発掘された第18図[20]。この写真は第20図に見る海のような判然とした地形を示す材料がないが、日影の短い点から正午近く撮影したものと考えれば、舞台は南西に向いている。

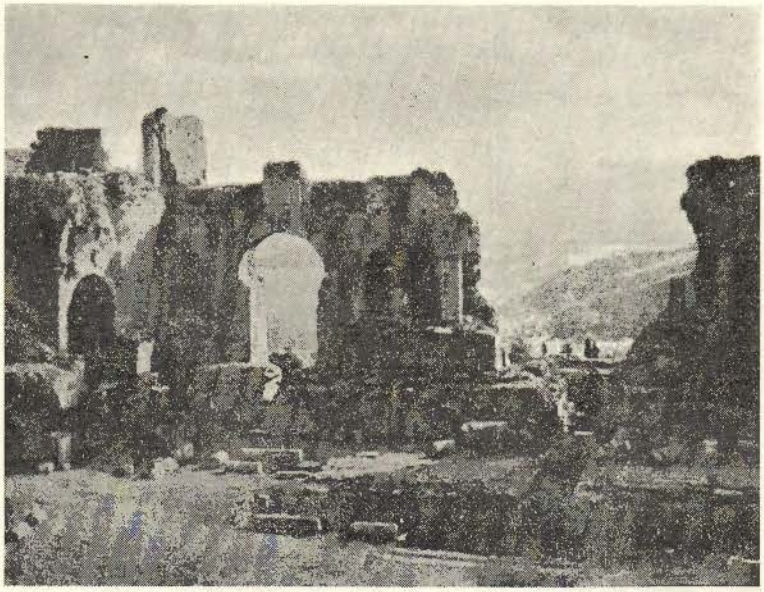
第21図[21]はギリシャ、アルカディアの旧都メガロポリスの劇場である。日影の長さと方向から推定して、これは朝日であり舞台の方角は南向と見なされる。

アテネのアクロポリス丘麓には、ディオニソス劇場と並んでエロデ・アティコ劇場がある第1図、第22図[22]参照)。舞



第10図　観覧席から舞台眺めたタオルミナ劇場

第11図　タオルミナの位置



第12図　第10図と同じ場所を違った時間に撮ったもの

台は北向きである。（因にこの劇場では一九六五年観世一行の能が上演された）この劇場はローマ時代に建造されたものである。

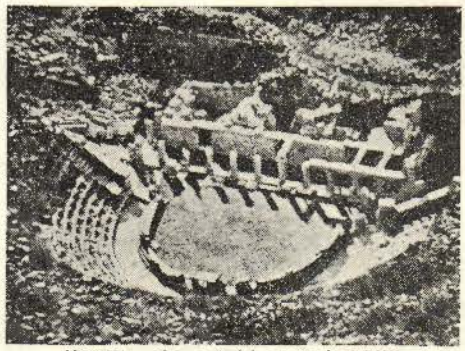
以上あげたいくつかの例を見てもわかるように舞台の方位は、決して一様でない。わが国の能舞台は北面することを原則としている。これは貴人の座席が南面するという習慣から、将軍、大名等の庇護を受け、その邸内の庭に設けられた関係から理由ずけられる。ギリシャ劇場の場合はそうした裏附が見出し難い。隣接した神殿との関係位置においては神殿に背を向けた舞台が多い。歌舞伎劇場は南面することを原則とする。これは日照を考えてのことと思われるが、日照に関係のない屋内劇場になった後も座席に東西の名称は近年まで残存していて逆に使うことはなかった。ギリシャ劇場の方位がまちまちであることは結局観覧席に自然の斜面を利用するという立地条件によるものとしか考えられない。その条件が優先するために日照の問題は無視されたと断ぜざるを得ない。

ローマ劇場

ローマ劇場は基本的にギリシャ劇場と同じ形式であるが、多少異った点を有している。その相違点についてアラダイス・ニコルは次のように述べている。[23]

(1) 丘の斜面に造られることは殆んど稀で多くは平地に建造される。その理由は建築家が精巧な装飾のための壁面を得たいがためのように思われる。

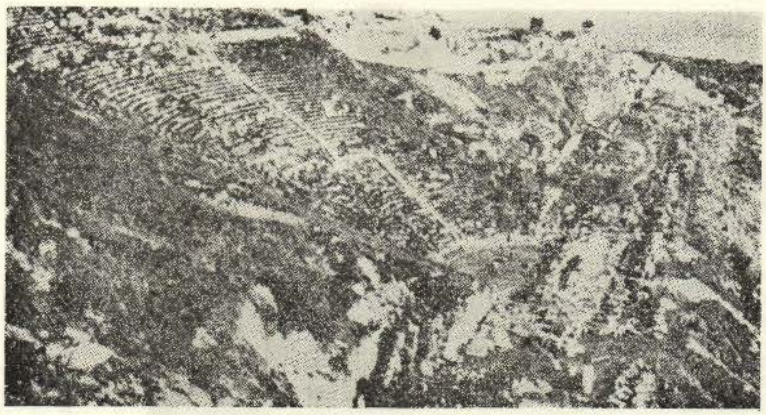
(2) 観覧席とオーケストラが半円形にな



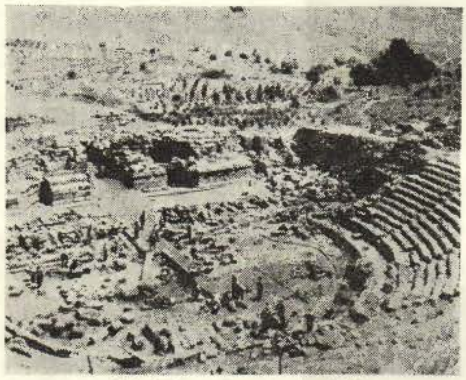
第13図　プリエネ(小アジア)の劇場

第15図　ペルガモ(小アジア)の劇場

第14図　エレトリアの劇場

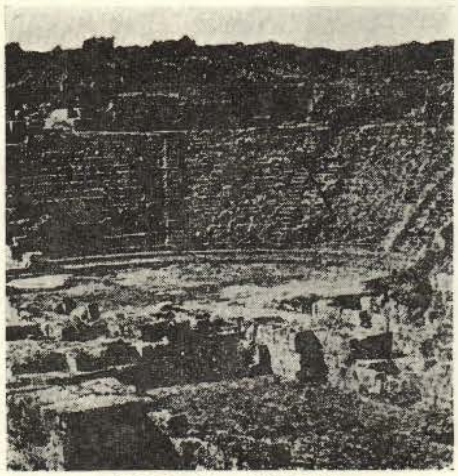


第16図　ペルガモの劇場



第18図　ペト・シアン劇場

第17図　西北から眺めたエレトリア劇場



第20図　カエサリア劇場

第19図　カエサリア劇場

った。

(3)舞台の高さは低目になり奥行を増した

(4)スケネの前面が豪華な装飾をもつようになった。また舞台に屋根をかける。

(第23図24)

(5)ギリシャ劇場においてはパロドイ（左右の通路は舞台と客席と別個の建造物の間にある門口に過ぎなかったが、ローマ劇場では舞台と客席とを総合した一個の建物を貫通した通路になった。

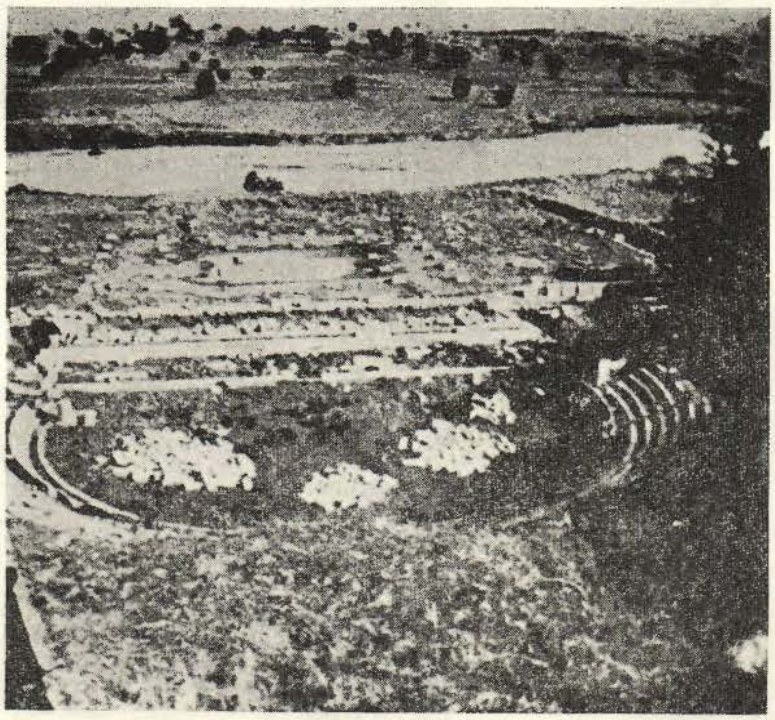
一体ローマ劇場は古代ギリシャからヘレニスティック・グレコローマンを経て次第に変化したものであり、その間古いギリシャ劇場をローマ式に改造したものであり、ギリシャ劇場と同じく傾斜地に設けたものである。

スケネは豪華な装飾をもつようになったばかりでなく、丈が高くなり、パラスケニアと観覧席が連結するようになったこと、殊に舞台上に庇を設けるに至っては、日照の点で北向の場合は朝夕の直射も日中の逆光も到低望めない。なるべく正面に近い方角に向かねば舞台上の直射光は先ず考えられないと見てよい（東向なら午前だけ、西向ならば午後だけということはあり得るが）。

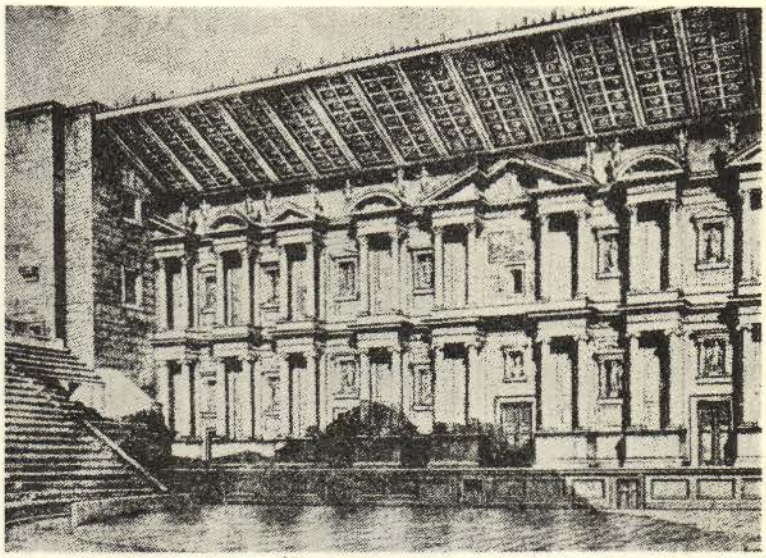
平地に建てられたローマ劇場は、若し直射日光を得ることを考慮するならば南向きにすることが可能だと考えられるが、果して現実にどうであったろうか。

アフリカ北岸トリポリタニアのレプテ

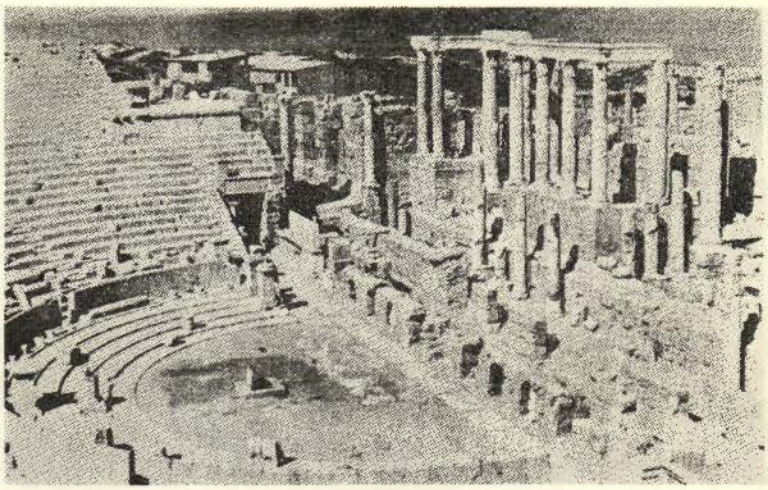
第21図　メガロポリスの劇場



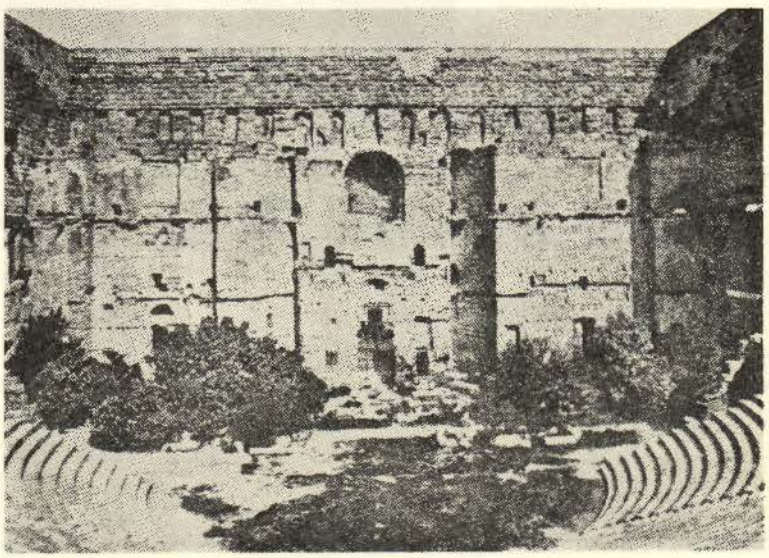
第22図　エロデ劇場



第32図　アスペンドス(小アジア)の劇場の復原図



第24図　レプティス　マグナの劇場



第27図　オランジュの劇場

ィス・マグナの劇場は(第24図[25])に見るように、日影と背景の海から見て南面していると思われる。またオランジュ(フランス)の劇場も大体南面していると思われる(第27図。第28図[26])。ところがポンペィにある二つの遺跡は地図の上から見るといずれも北向きである。アスペンドスの劇場は丘の北東側にあるから第29図[29])と照合して南西向きであると見られる。

むすび

ギリシャ、ローマの劇場が日照をどう考えていたかを調べるために以上の考察を行なったのであるが、一貫してそれを演出の上にあるいは観劇の上に計ったという形跡は見えぬ。即ち舞台の方角は一定していない。ギリシャ劇場においてはそれが傾斜地を利用したという立地条件によるものと断定せざるを得ないが、平地建造のローマ劇場においてすらそれが不定であるということは、結局当時の演劇においては照明に関して無関心であったという結論を導くより他あるまい。そうした状態のままで屋内劇場へ移行する歴史を辿ったのである。

舞台上の俳優を最も明かに見せようとする計画が無視された点については私は疑念を抱くのである。無論、面をつけた演技は顔面の表情までしさいに見せる必要はないのであるが、より良い視覚を与えるためには照度を可能な状態において大

に考慮があってもよかった筈ではないか。単に面によって顔面を大きくし、コソルノスをはいて背を高くする方法で、対照を大きくするだけが視覚満足の条件であると断じたところに、未だ考慮の不足があったのではあるまいか。これがわが国の能舞台の如く客席の規模が小さい場合はいざ知らず大観衆を擁する劇場なるが故にこの点を指摘するのである。

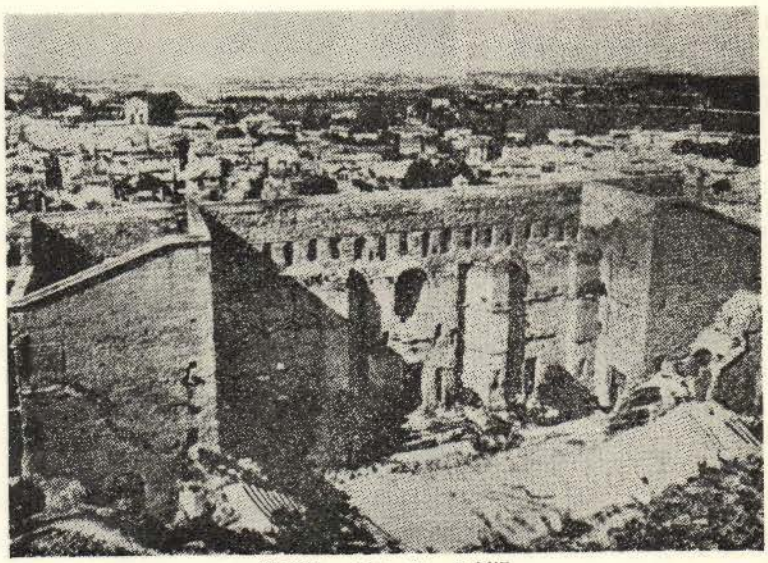
以上は観客の視覚条件をよくするための日照について考えたのであるが、実際の演劇において昼夜、明暗等の表現を行なう演出上の問題については稿を改めて発表する機会をもちたいと思う。

（昭和四十年七月三十日）

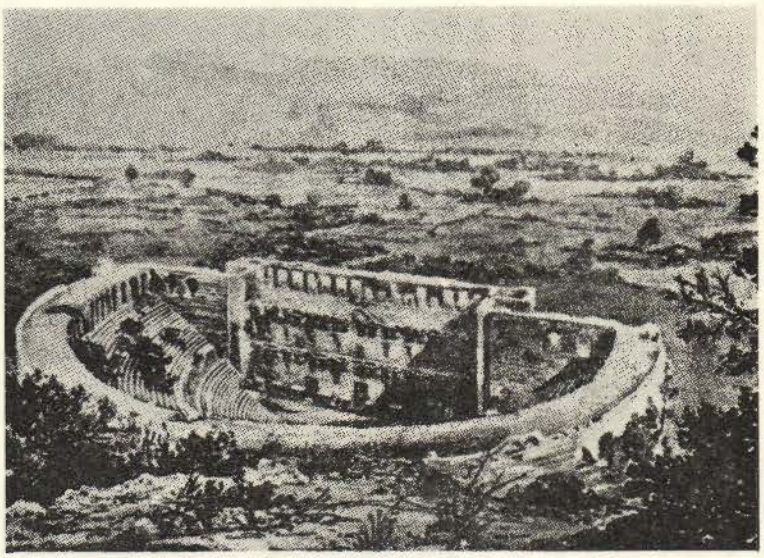
この論文は日本大学研究誌「芸術」に発表されたもので、筆者のご好意により転載を許可されました。ご好意を深く感謝致します。

なお、文献は紙面の関係により略されて載きます。

事務局



第28図　オランジュの劇場



第29図　アスペンドスの劇場

舞台効果用スライド製作

カラー　白黒

サイズ　35ミリ　6×6　手札　4×5

〈雲〉各種タネ板取揃

スライドに関する問題はアルゴン社へ御相談下さい

営業品目

各種スライド製作
アルゴントーキースライド販売
アルゴンスコープ販売
ピーマックススポットライト販売

株式会社アルゴン社

東京都港区芝赤羽町4　452/3066

下記にても取扱っています

東京都千代田区内幸町
日比谷公園弐号地　(591) 6587

有限会社 日比谷照明

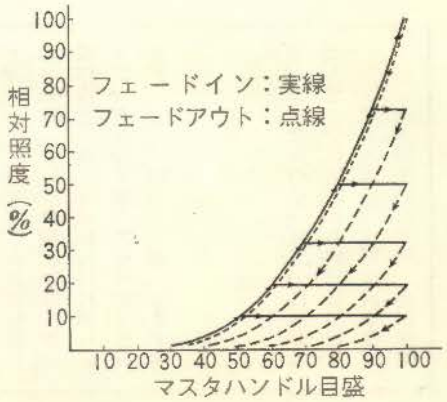
半導体による調光 (4)

瀬川泰男
(東芝照明回路技術課)

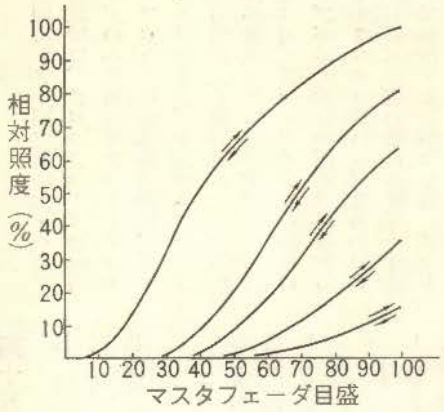
SCR方式では当初フェードイン・フェードアウトの特性として図11に示した掛算特性しかとれないものとされていました。即ち、明るいレベルに設定されたあかりはマスタフェーダの動きの全域にわたって大体一様に変化し、暗いレベルに設定されたあかりはマスタフェーダのほんの僅かの動きで変化を完了するので、フェードインのときは暗いレベルに設定したあかりは、マスタフェーダを動かし始めの所ではあかりができないで、マスタフェーダの動きの終りに近い所でやおらつき始めて所定の明るさに達し、逆にフェードアウトするときは、マスタフェーダを動かし始めの所で、暗いレベルに設定されたあかりは忽ち消えてしまいます。この掛算特性はフェーインフェードアウトの際、局部的なあかりを強張する場合には有効な特性ですが、必ずしも全面的に歓迎される特性ではないので、その後、足し算特性とよばれる図12に示したフェードイン・フェードアウト特性が開発され、また最近は、テレビスタジオ関係で図13に示したように、すべてのあかりがフェーダの目盛に比例して直線的に変る直線特性が最適のものとして開発されてきております。

テレビスタジオで使用される場合は、セットの情景がカメラを介してブラウン管上に映し出れるのに対して、舞台で使用される場合は、舞台の情景は直接観客の眼に肌に感ぜられるもので、従って相者の間ではその操作手法は自ら大きく両違し、フェードイン・フェードアウト特性の一つをとりあげても、舞台ではケースバイケースでいずれの特性が最適ということはきめられない現状にあります。テレビスタジオ用としては直線特性が最適の特性として決定づけられつつありま

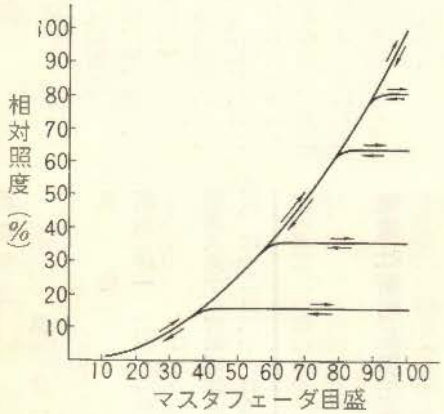
図・10. オートトランス方式調光特性



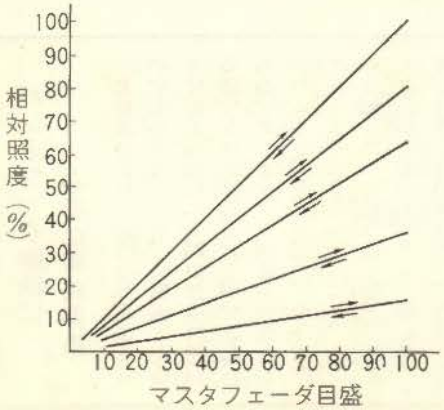
図・11. SCR方式調光特性〔掛算特性〕



図・12. SCR方式調光特性〔足し算特性〕



図・13. SCR方式調光特性〔直線特性〕



す。

新帝国劇場および国立劇場大・小ホール調光装置では、クロスフェーダの一方のフェーダのみ使用してフェードイン・フェードアウトする時は掛算特性、グループマスタフェーダ、システムフェーダを使用する時は足し算特性になるように操作回路が構成されています。

尚かなり速くフェードインする場合には、ランプが早く所定の明るさに達するよう、予めてマスタフェーダをあかりの出かかる目盛三〇位の所にあげて一寸止めておいて操作するとかなり速いフェードインを行うことができます。オートトランスの場合は、その操作が機械的操作であるので、SCR方式でできるような速いフェードイン・フェードアウト操作はできません。

また現在のSCR調光装置はすべて電子回路で操作するようになっていますので、全景をフェードイン・フェードアウトする時、すべてのあかりは一斉に変化し始め同時に変化を完了しますが、これに機械的操作機構を組み合はせれば、例えば全景のフェードイン・フェードアウトの際にも、回転する主軸にプリセットフェーダを機械的に結合していって、各あかり毎にあかりの変化し始める時点を随時えらぶことができます。

（次回よりグルーピングの方法）

第十五回常任理事会

日　時　十月十三日午後一時
場　所　中央区立銀座東区民館
出席者　小川、前田、和田、原、高柴、阿部、土村（順不同）

十一月十六日、常任理事会開催の日にSCR調光装置の実際に操作している立場の方に集って戴き、ディスカッションしてSCR調光装置の色々の利点、欠点を指的して、資料を製作することにしたい旨提案された。事務決定事項は来月廻しにすることにした。

大庭三郎氏
第二十一回芸術祭奨励賞を「太陽の丘」ほかの照明で受賞す。

舞台美術三人展開かれた
石井康博、岡田道哉、柳沢満智男の三氏により十一月三日より九日まで、新宿紀伊国屋画廊で開かれた。

住所変更及表示変更（順不同）

野尻　普　新宿区上落合二丁目二一番三号

鈴木紀一　新宿区富久町六〇番地星方

久利元宏　小金井市東町四丁目八四番地土屋アパートA号

古谷誠一　（厚生年金会館）茅ケ崎市浜見平

ジャパンアートスタッフ　港区南青山三丁目十四番二十六号　浜見平団地四の一の一〇六

氏名変更

小楓　章　桑原　章（有馬照明）に改姓した

退　会

新川順一　京都に移転のため十一月三十日退会した。

佐藤渡美子　**宮城昭雄**（いずれも大庭照研）は十二月三十一日で退会した。

秋山易三氏の御内方十二月八日死去された。謹んで御冥福を祈ります。

竜電社新製品展示会開かる

十一月二十四日（新聞記者招待）より二十六日迄で赤坂プリンスホテルに於て、竜電社、新製品展示会が催された。主な展示品は

①半導体素子サイダックを応用、ポータブル小容量—2KWサイダック調光器
②会議室、事務室、一般家庭用の螢光灯白熱灯用サイダック調光器
③マグネット、スキッチにサイダックを使用、スパークを小さくする。役目に用い、接点の保護用とする。
④螢光灯バンクライト及び、新型パンタグラフ。
⑤レンズスポット及びマグノカラー。

等にて劇場、テレビ用サイダック調光装置は写真パネルにて展示してあり、協会員としては、写真パネルでなく実演操作の展示のないことは残念であった。次回にはその様な機会を希望したい。

ハンドブック編輯に必要な資料募集

基礎編の原稿はどうやら出来る目やすがつきましたが、実際編こそ会員すなわち実際に照明の仕事に携わる者でなければ作ることができないものであります。日頃自分で実行していること、新しい工夫、やってみたがうまくできなかったこと、あるいは知りたいと思うことなど、何でもよいから送って下さい。例えば、屋台のランマのストリップの吊り方コードの這わせ方、ステージスポットでもその目的によってどんな条件が必要か、フロントやセンタースポットの操作について原則的な注意が必要か、また配電盤の操作上心得など何でもよいのです。会員がそれぞれの分野についての経験を持ち寄って作るということがわれわれがハンドブックを作る最大の意義だと思います。どうぞ協力をお願いします。

期　日　なるべく一月三一日までに
送り先　千代田区丸の内三の二新東京ビル五五〇室阿久沢事務所
内小川照明研究所　小川昇宛